

元気創造研究センター

年 報

平成 23 年度

星 城 大 学

1. はじめに

はじめに

元気創造研究センターが開設され、早いもので一年が過ぎようとしています。この一年のセンターの歩みは、決して大きいものではありませんが、全学的研究推進拠点としての運営基盤は構築できたのではないかと捉えています。

本学のような規模の小さな地方大学は、しっかりと地域に足を下ろしていることが大切であり、今後の発展方向を考えたとき、研究活動も地域の課題を意識したプロジェクトを積極的に伸ばし、教育活動にもフィードバックすることによって地域を支える人材を育てていくことが基本戦略となります。

もちろん現状においては、そのような研究活動を実現するためには様々な課題があります。ひとつは、学内の共同研究の推進体制が十分でないこと、ひとつには学外の研究ネットワークとのつながりが弱いこと、ひとつは地域課題に取り組むための地域の多様な人的資源とのつながりが弱いことがあげられます。しかし、そのような課題の克服は、一つ一つの研究プロジェクトを実施する成果を積み上げていくことでおのずから可能になっていくのではないかでしょうか。センター設立の趣旨を生かしながら、教員の研究シードをどのように育てていくか、各教員の努力に期待したいと思います。

今年度のセンターワン報の取りまとめに当たっては、記録性、資料性を重視し、まとめることにしました。

この一年、センターの運営に尽力いただいた、竹田副センター長、天野副センター長はじめセンター運営委員会委員及び事務局を担当した久米さんの尽力に感謝します。

平成24年3月30日
元気創造研究センター長
水野 豊

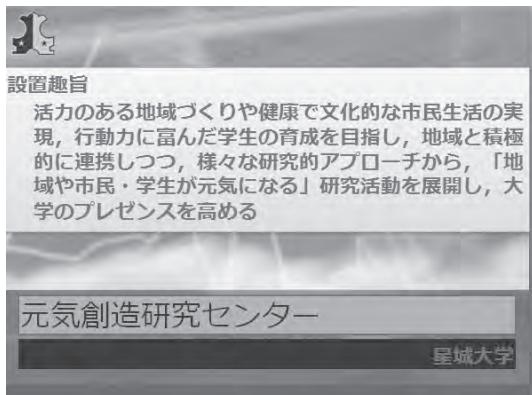
2. 目次

目次

1.	はじめに	2
2.	目次	4
3.	概要および研究領域	6
4.	平成23年度の実施事業	
4-1	シンポジウム	
4-1-1	5月28日開催 「本物に学ぶ人づくり」	11
4-1-2	8月27日開催 「グローバル社会と女性のキャリアデザイン」	14
4-2	公募研究助成課題	
4-2-1	<自分づくり領域> シリアルゲームを活用した問題解決型演習の運用方法及び効果 測定に関する研究	17
4-2-2	<健康支援領域> (1) 介護予防のための心理社会面に着目した包括的地域介入に 関する研究	22
	(2) 成人知的障害者の健康増進活動に対する理学療法士介入 効果の検証について	26
	(3) 市民マラソン参加者における運動支援が健康上にもたらす 効果の検証	30
4-2-3	<グローカル社会領域> ローカル・スマートコミュニティ形成に向けた考察	33
4-2-4	<知識基盤社会領域> 学生スポーツが地域社会の健康増進に果たすべき役割を考える	38
4-3	科学研究費助成説明会	43
5.	広報活動	
5-1	H Pの開設	55
5-2	メディア掲載（新聞、学園報）	57
6.	編集後記	61

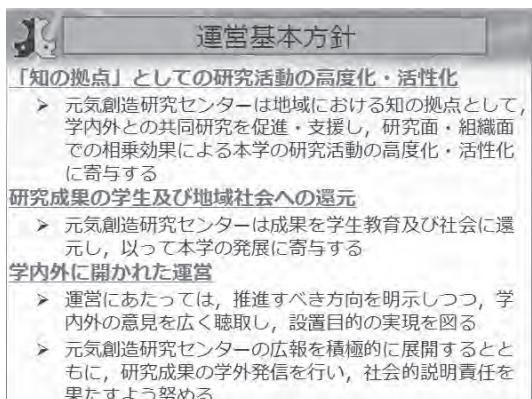
3. 概要および 研究領域

概要および研究領域



元気創造研究センターの設置趣旨

『活力のある地域づくりや健康で文化的な市民生活の実現、行動力に富んだ学生の育成を目指し、地域と積極的に連携しつつ、様々な研究的アプローチから、「地域や市民・学生が元気になる」研究活動を展開し、大学のプレゼンスを高める』

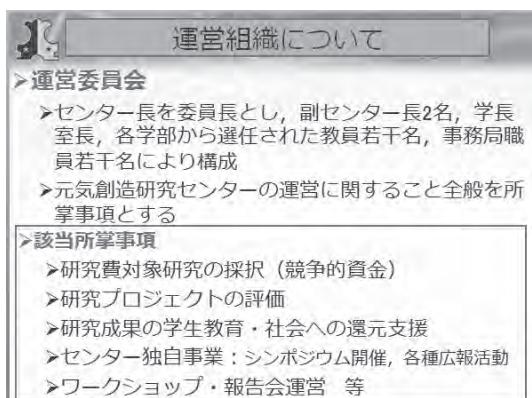


運営基本方針

第一に研究活動の高度化です。国際センターや地域センターが「事業」を担うのに対し、研究センターは「研究」を焦点としている。大学自体の研究の高度化と活性化をサポートすることが本方針の目的の一つであるため、その手段として、学内外の知的資源の融合（共同研究）を促進・支援していく。

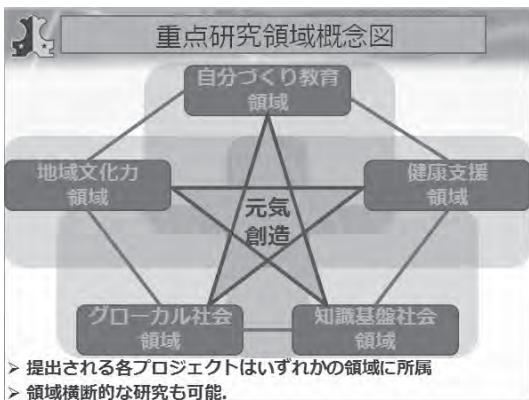
第二に研究成果を学生教育や社会に還元すること。ここでいう社会とは地域社会だけでなく、国際社会も視野に入れられている。

第三のポイントは主に運営面である。元気創造研究センターは重点研究領域を設定し、研究センターとして推進すべき方向性を明示するが、学内外のニーズに合わせ、重点研究領域は適宜見直しを図る。加えて、研究成果の学外への成果発信の促進・支援を行い、研究の高度化・活性化と同時に大学の第三のタスクである社会貢献の実現を目指す。

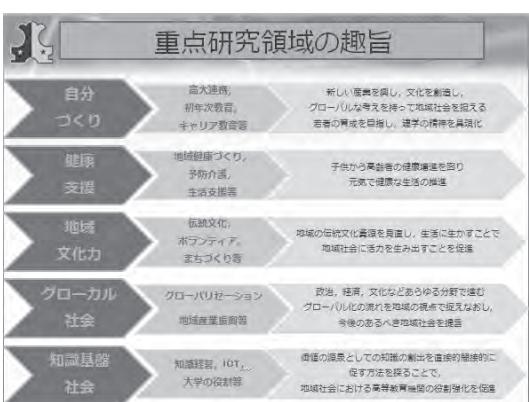


運営委員会には、センター長、副センター長はじめ、各学部から選任された教員若干名を含む。プロジェクトの採択・評価にあたって公平性を担保するための仕組みである。

該当所掌事項は現在、明確になっているものだけが記載されているが、学内外からのニーズに合わせて、タスクを再検討していく。



元気創造研究センターの趣旨に鑑み、以下の重点研究領域を設定する。先述の通り、重点研究領域は恒久的なものではなく、元気創造センターの趣旨の範囲内で適宜見直しを図る。重点研究領域は左記の5つであるが、いずれの領域においても元気創造につながるものとして、研究テーマ、目的が設定されている。



健康支援領域は子供から高齢者の健康増進を図り元気で健康な生活を推進することを目標とする領域である。キーワードは地域健康づくり、予防介護、生活支援等。

地域文化力領域は地域の伝統文化資源を見直し、生活に生かすことで地域社会に活力を生み出すことを促進することを目標とする領域である。キーワードは伝統文化、ボランティア、まちづくり等。

グローカル社会領域は政治、経済、文化などあらゆる分野で進むグローバル化の流れを地域の視点で捉えなれど、今後の志るべき地域社会を提言することを目標とした領域である。キーワードはグローバリゼーション、地域産業振興等。

知識基盤社会領域は価値の源泉としての知識の創出を直接的間接的に促す方法を探ることで、地域社会における高等教育機関の役割強化を促進することを目標とする領域である。キーワードは知識経営、ICT、大学の役割等。

4. 平成23年度の 実施事業

4 — 1

シンポジウム

4 — 1 — 1

5月28日開催

「本物に学ぶ人づくり」



星城大学元気創造研究センター開設記念シンポジウム

『本物に学ぶ人づくり』

～学校法人名古屋石田学園創立70周年記念関連事業～

日 時： 平成23年5月28日（土曜日） 13:30～16:40

場 所： 星城大学 4号館 4301教室(東海市富貴ノ台2-172)

ご挨拶： 学校法人名古屋石田学園理事長 石田 正城

基調講演： 「夢出せ！知恵出せ！元気出せ！～志のある人づくり～」

講 師： 小野 晋也 先生
(OAK TREE運動主宰)
元文部科学副大臣

● 大学からの報告
「地域貢献の人づくり大学再考」
～元気創造研究センター発足
に当たって～

報告者 星城大学 学長 水野 豊

星城大学TEL:052-601-6000/FAX:052-601-6010



小野 晋也 先生

パネルディスカッション「本物に学ぶ人づくり」 ～歴史に学ぶ、地域に学ぶ～



犬飼 康博 氏
中部日本放送㈱取締役
㈱シーウェーブ
代表取締役社長



坪田 知広 氏
観光庁観光地域振興課地域
競争力強化支援室長（兼）
スポーツ観光推進室長



早川 康司 氏
東海市教育委員会委員長
(社)東海青年会議所元理事長



吉村ゆきその氏
上方舞踊家
(社)日本舞踊協会参与
第40回文化庁芸術祭賞受賞

お申込み方法 お名前・ご住所・お電話番号を明記の上、FAX(052-601-6010)にてお申込みください。

共催：星城懇話会／後援：東海市・東海市教育委員会・中部日本放送(株)・中日新聞社

開催趣旨

バブル崩壊後の経済的停滞、人口減少社会の到来、グローバル社会の進展、地球環境問題など日本を取り巻く環境は、大きく、かつ、激しく変化してきているが、現在の日本は、それらの変化に的確に対応できず、国民の間に閉塞感が広がっている。

そのような中で、去る3月11日東日本に起きた大震災は、自然の厳しさや現代文明の脆さ、社会の絆の大切さを痛感させ、人間の生き方に対する価値観の変革を迫っている。

このような危機ともいえる中で、もっとも根源的で、重要な課題は、これからの中社会を自らが主体的に力強く生き抜き、周囲の人々に生きる元気を与える人材を、いかに育てていくかということである。

本シンポジウムでは、時代を超えて語り継ぎ、教え伝えていくべき「本物」をキーワードにしながら、これからの日本を担うべき人材をどう育成していくかを議論し、今後の教育のあり方を展望していきたい。

ご挨拶



石田学園は、昭和16年9月私塾「明徳学館」を開設したことから始まり、幼稚園から中学校、高等学校、大学、大学院までを有する総合学園として、建学の精神（報謝の至誠・文化の創造・世界観の確立）に基づいた教育を行っている。

学校法人名古屋石田学園 理事長 石田 正城

「元気創造研究センター」は、活力のある地域づくりや健康で文化的な市民生活の実現、行動力に富んだ学生の育成を目指し、地域と積極的に連携しつつ様々な研究的アプローチから「地域や市民・学生が元気になる」研究活動を展開することを目指すことを目的に平成23年4月に発足した。

星城大学 学長 水野 豊



キリトリ

シンポジウムに申し込みます。

FAX : 052-601-6010

お名前	住所	TEL

☆車でお越しの方は、本学裏に駐車場がございますので、ご利用ください。

☆電車でお越しの方は、名古屋駅からは名鉄常滑線・河和線で約25分、新日鉄駅下車、徒歩5分の小高い丘(富貴ノ台)の上にあります。

☆お問合せ:TEL052(601)6000学長室



4 — 1 — 2

8月27日開催
「グローバル社会と
女性のキャリアデザイン」

星城大学公開シンポジウム
「本物に学ぶ人々ぐくり」シリーズ第2弾

入場無料

「グローバル社会と女性のキャリアデザイン」

日時：8月27日(土) 13:30～16:30

場所：星城大学4号館4301教室
(東海市富貴ノ台2-172)

第一部 社会の第一線で活躍する女性
・大学からの提案

基調講演

「仕事とともに生きて」

独立行政法人国立女性教育会館理事長 内海房子氏
(前NECランギング株代表取締役執行役員社長)



話題提供

「起業への挑戦」

田嶋雅美氏

株式会社フランチャイズアドバイザーズ 代表取締役
聖徳大学人文学部現代ビジネス学科客員教授
経済産業省中小企業庁
創業ハッピーフィー国民フォーラム幹事
経済産業省「サービス産業生産性革新委員会」
委員



話題提供

「星城大学経営学部の新たな取組み」

星城大学経営学部教授 崔俊氏



専門：戦略経営、危機管理、技術経営持続性を高める組織の戦略的危機管理の実践原理、大学経営における戦略的経営と危機管理が主な研究テーマ。

第二部 パネルディスカッション

「ビジネスで成功する女性に求められるもの」



千田伸子氏

東海市教育委員会委員長
構成作家・大学非常勤講師

元CBCアナウンサー、現在は、
テレビ、ラジオの番組構成、
エッセイの執筆など文筆業
を主として活動。日本
家庭教育学認定、家庭教育
教師、カウンセラーの資格を
もつ。

(コ-テイネーター)

久野美奈子氏

特定非営利活動法人
起業支援ネット 代表理事



日本カート化粧品株
で人事・営業に従事。
2009年より現職。
2006年4月開設の
名古屋市地域密着型
施設 Combi 本陣の
創業支援・施設運営、
起業講座の講師多数。

鏡味次男氏

ハローワーク刈谷求人開拓班主任
東海学園大学大学院 非常勤講師



公共職業安定所、
愛知労働局勤務。
愛知労働局需給調整
事業部長で定年退職。

●お申込方法：FAX(052-601-6010)もしくはE-mail(kume-h@seijoh-u.ac.jp)
にてお申込下さい。(お問合せ：星城大学学長室・久米(052-601-6000)まで)

後援／愛知県・(財)あいち男女共同参画財団・東海市・東海市教育委員会・中日新聞社

4 — 2

公募研究助成課題

4－2－1

<自分づくり領域>

シリアルゲームを活用した
問題解決型演習の運用方法及び
効果測定に関する研究

平成 23 年度元気創造研究センター助成研究報告

シリアルゲームを活用した問題解決型演習の運用方法及び効果測定に関する研究

2012/03/21

作成者:天野 圭二

1…研究体制

1) 参加メンバー

研究代表者:天野 圭二(経営学部准教授)

研究分担者:野村 淳一(経営学部准教授), 室 敬之(星城大学事務局長)

2) 研究の実行体制の概要とシリアルゲームワークショップ

本研究は、申請者ならびに申請者らが所属するシリアルゲームワークショップ(SGW)にて、研究を推進している。SGW はシリアルゲームと呼ばれる各種の経営シミュレーションゲームを用いて、学生が学修内容の定着を図りながら主体的な問題解決能力を身につけるための方法論とその評価方法を多様な角度から検証することを中心におきながら、ゲームが学修に対して持つ可能性について広く議論するための場である。

より具体的には、各科目で身につけた専門知識を活用し、知識を統合する手段として市販デジタルゲームを活用した教育方法を提案し、科目としての運営方法・評価方法の確立を目指してきた。来年度のカリキュラム再編に向けて、SG 演習を設計し、シリアルゲーム演習への参加を通じて、学生がより円滑に専門知識を総合化する機会を提供、問題解決能力や自律的・論理的思考力の醸成を進める場として機能させることを SGW の目標の一つに据えて研究を進めてきた。

2011 年度は以下のテーマを重点的に取り組んできた。

1…シリアルゲーム演習の設計(使用ゲームの選択, シラバス・ワークシート作成)

2…ハイブリッド宝探し「へいしゅうくんと行くトレジャーハンティング」開発

3…内部・外部研究費獲得に向けた研究テーマ策定

4…SGW の認知度向上策に向けた取り組み(外部研究機関との交流, ラジオ出演)

2011 年度は 6 月から約 20 回のワークショップを開催した。

実行体制



現状、シリアルゲームワークショップは以上の実行体制と取り組みを有している。この体制に加え、高等教育論の専門家として、室敬之事務局長が研究プロジェクトに参加している。

2…研究結果 ー演習の設計ー

1) 現状把握と演習のカリキュラムにおける位置づけ

本学の現行の中期計画にある教育内容の改善充実の一環として、問題解決型学習の方法論を具体化するという目標が掲げられており、シリアルゲーム演習(以下、SG 演習)はこれに対応する提案として検討を進めてきた。2012 年度からのカリキュラム改編に向けて具体化すべく、現状把握とカリキュラム上の位置づけから議論を開始した。

演習の設計にあたっては、学部の教育体系を考慮し、どの段階で導入するのが最も効果的か、

また演習の中身・運営方法はどのようなものになるべきかを多角的に検討した。

通常、学部教育課程においては、学士に相応しい知識を総合的に修得させるため、相互に関連する多様な講義科目を展開している。しかし、学生の科目間の関連に対する意識は必ずしも高いものではなく、結果として各科目で提示される専門知識を総合的に捉える態度の涵養は難しい現状がある。このような現状を打破するためには、それぞれの科目で会得した知識を体系的に理解し、修得できる取り組みが必要である。

この現状を前提に、本学におけるカリキュラムを概観していく。

本学経営学部における学部教育は、1年次に教養、日本語リテラシー、語学、基礎演習など、コミュニケーションベーシック、一般教養科目に加えて経済学、経営学、会計学などの基礎科目が配置されており、2年次からは専門基礎科目が、3年次以降は専門科目が配置されている。

しかし、体系的な教育課程の編成や学修の改善の面では、特に専門教育につながる2年次において、専門基礎課程が十分に機能していないという現状がある。

その結果、基礎・教養の内容や技法を自分のツールにできない今まで、座学を主とした個別専門科目に入っていくことになる。つまり、関連性の高い各専門領域における学習内容を個々ばらばらの知識として受け取ることとなり、統合知として個々人に定着し難い状態である。またこれが学習意欲にも影響している。

この状況を開拓するため、SG 演習は専門課程に入る前の段階で、学生がこれまでに得た経営学の基礎知識を統合するプログラムとして構築することとした。

よって、2年次配当の必修科目である経営学原理終了後の2年後期に配当することとする。また、限られたハードウェアと教育効果を重視した演習規模を考慮し、30名程度の学生を10チームに分け、履修対象者は専門基礎科目を修得済みの学生に限ることとした。

現状では演習運営のノウハウの蓄積が不十分であることも、履修制限の一因となっている。また、SG 演習の位置づけ・目的と経営学部の教育目標を鑑みると、将来的には履修制限の撤廃についての議論が必要となる。

2) 現状と経営学部における人材育成の目標に基づく演習設計

SG 演習は、先に述べた学修状況の現状を改善するためのものであると同時に、経営学部が目的とする「事業を通して社会に貢献できる人材の育成」のために、知の統合的修得を実現すること、そしてこれをもとにした学生の自覚的・能動的学修の強化を図ろうとするものである。

また SG 演習は、グループを組んだ学生が現代社会や企業の様々な課題(経営学部の各科目で行われている講義が扱う内容)をテーマとし、これを多様な側面から分析・理解し解決策を提示する過程を、専門が異なる教員の協働のもとで取り組む協調学習型演習である。

複数の専門課程教員の配置だけでなく、専門用語検索システムの導入などの多様な方法により専門科目間連携を強化し、また、教員・学生の双方向学習、学生間相互を含む三方向学習を通じた幅広い学びを実現していく。

3) シラバスの作成

別紙参照。

また、取り上げるゲームについては、4つの経営資源+市場における競争という視点と小売、サービス、製造、スポーツ産業という4つの分野を取り上げてマトリクスを作成、それぞれの分野で使用するゲームを、学生の意見も踏まえて決定した。

経営学的見地から見たゲームバランス一覧表

業種	ゲーム名	ヒト	モノ	カネ	情報	市場
小売業	ザ・コンビニ(PS2)	3	3	3	3	3
サービス業	ゆけむり温泉郷(iPad)	1	3	2	4	3
製造業	ゲーム発展国++(PC)	4	3	3	4	4
スポーツ産業	サカつく(PSP)	4	1	3	2	2

ゲームのプラットフォームは、PS2、PSP、iPad、PCとなっている。演習の第1クールではザ・コンビ

ニを用い、第2クールではそれぞれのチームの興味に基づいて、ゲームを選択することとなる。演習実現に当たっては、ハードとソフトの調達が必要となる。

4) 教材検索システム

2011年度は演習実現に向けて必要となる教材の作成と評価方法を検討してきた。

教材はワークシート、スライドが必要となるが、目標の一つである科目間連携を効果的に実現するため、教材検索システムを検討、法人事業部の支援と教務委員会での許可を得て試作を行った。

具体的には本学のWBTサーバに保存されている教材に対する全文検索システムであり、SG演習以外での用途も考えられるため、SGWとしては元気創造研究センターからの研究費の枠外で予算を獲得、研究を進めた。

開発した教材検索システムはMinervaとして、学内向けにベータ版を公開中である。資料別添
<http://minerva/>

当該年度のシラバスと過去にWBTにアップロードされた教材(ppt,pptx, pdf)に対して全文検索をかけるシステムである。検索エンジンにはFessを用いた。現状、サーバ内の126000ファイルに全文検索が可能である。

5) 評価方法の概略

これまでの研究成果と国内外での研究報告時に得たフィードバックを元に、議論を進めた。

評価方法は科目特性(科目間連携のための橋渡しとしての科目として設置する)に鑑み、

A)自己目標設定と達成度の主観的評価

B)科目間連携の観点から見た客観的評価

を組み合わせることで教育効果を測ることを基本方針とする。

A)についてはブリーフィング時に①ゲームの選択理由、②明らかにしたいこと、③その方法論を事前レポートとして課し、デブリーフィング時に①～③それぞれについて、妥当であったか、どのような成果が得られたかを事後レポートにまとめさせる。

B)については教材検索システムなどを活用し、②で自ら設定した課題を取り巻く概念や専門用語にはどのようなものがあり、自らの関心事はどのような科目群と関係性が深いのかを概念図にまとめさせた上で、ゲームと現実の違いについて論じさせ、今後の研究課題を明確化させる。

また、Bについてはコンピテンシーディクショナリの適用可能性を検討した。

これにより、本学における適用性のみならず、シリアルゲームを用いた教育方法論の一般化に資する研究としての可能性を発見できた。

教育工学的見地からは無理に数値で評価しなくてもよい。定量の指標が必要であれば、同じテーマで事前・事後レポートを課し、文字数を比較する方法もある。福山@早稲田との助言も参考に、次年度にはコンピテンシーディクショナリの咲く瀬も含めたレポートのフォーマットを完成させることとする。

3・外部研究費獲得に向けた研究テーマ策定

受給中

* 元気創造研究センター助成研究「シリアルゲームを活用した問題解決型演習の運用方法及び効果測定に関する研究」40万円

* 名古屋石田学園事業部 教材検索システム開発費用:30万円

申請中

* 科学技術融合振興財団 平成23年度助成金に応募.

「社会に役立つシリアルゲームの調査研究」10～15件

4・研究成果の外部への発信状況（外部研究機関との交流、ラジオ出演）

1)論文

国際言語文化研究所紀要『立命館言語文化研究』2012年度 第2号(2012年9月発行予定)
天野圭二(2012)「グローバリゼーションのなかのビデオゲーム:フィンランドにおけるゲーム産業振興の現状と課題(仮)」掲載予定

2)講演

2011/10/28 立命館大学国際言語文化研究所連続講座「グローバル・ヒストリーズー国民国家から新たな共同性へ」第2シリーズ「歴史のなかの感覚変容」: グローバリゼーションのなかのビデオゲーム、コメンテーター
報告者 Jaakko Suominen(フィンランド、トゥルク大学教授)

2012/02/27 フィンランド国家技術庁 TEKES(Tekes Learning Solutions programme)主催 Webセミナーにて講演

<http://www.tekes.fi/programmes/Oppimisratkaisut/Current+topics/Serious+games+in+Japan-27-2-2012a?type=event>

テーマ1: General situation of digital serious games in Japan; e-learning in Japan.

テーマ2: Japanese game software industry for mobilephone/smartphone

2012/02/28 ヘルシンキ大学 CICERO ラーニングにて講演

テーマ: General situation of digital serious games in Japan

http://www.cicero.fi/sivut2/events_Amano_Feb2012.html

2012/02/29 アールト大学にて講演

テーマ: Practical use of serious games using consumer gaming console in higher education

<http://mediafactory.aalto.fi/?p=1260>

2012/03/02 ユバスキュラ大学 Agora Game Lab にて講演

テーマ: Serious Games as an educational tool: Methodology and evaluation

2012/03/05 ポリ大学コンソーシアム 第2回フィンランド・日本シリアルゲームワークショップを共催
企画: a game workshop and a nerd culture meeting with students.

3)その他

- * 情報経営学会、シミュレーション＆ゲーミング学会、日本デジタルゲーム学会への参加
- * メディアス FM「メディアス・スタジオ」2011年6月29日放送
番組内容: 「社会貢献の人づくり大学」を目指す星城大学経営学部における新しい取組み<ゲームで学ぶ経営学>について紹介。合わせて、星城大学で夏休みに行なう親子向け公開講座も紹介、全体を通してリスナーに“学びのヒント”を提案した。
- * オープンキャンパスでの模擬講義実施 2011年7月30, 31日, 2012年3月10日
- * 東海商工会議所 飲食店部会にてプレゼンテーション「へいしゅうくんといくとレジャーハンティング」2011年10月27日
- * フィンランド、トゥルク大学 Jaakko Suominen 教授と名古屋にてゲーム産業に関するフィールドワーク、二カ国間ワークショップ打ち合わせ 2011年11月13日-15日
- * カナダ、アルバータ大学 Geoffrey Rockwell 教授と名古屋にてゲーム産業に関するフィールドワーク 2011年11月25日
- * Jaakko Suominen 教授, Geoffrey Rockwell 教授, 吉田寛准教授(立命館大学)と京都にて、ゲーム産業、パチンコ産業、同人産業に関するフィールドワーク 2011年12月4日
- * コーエー『エアーマネジメント2』を入手、航空会社のマネジメントを教材の検討対象に加えた。

4 — 2 — 2

<健康支援領域>

(1)

介護予防のための心理社会面に着目した
包括的地域介入に関する研究

介護予防のための心理社会面に着目した包括的地域介入に関する研究

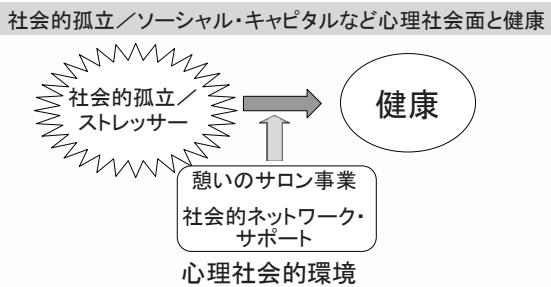
研究代表者

星城大学 リハビリテーション学部
竹田徳則
分担研究者
木村大介・大浦智子・今井あい子

20120321

本研究の背景・目的

本研究では、心理社会面と健康に着目し「憩いのサロン」を活用した介護予防のための地域介入によってもたらされる効果と課題を明らかにする。

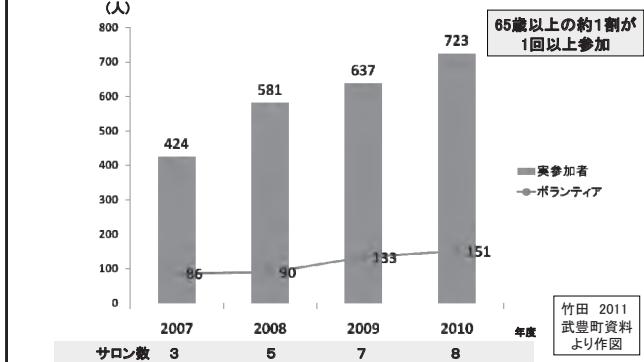


愛知県武豊町憩いのサロン紹介

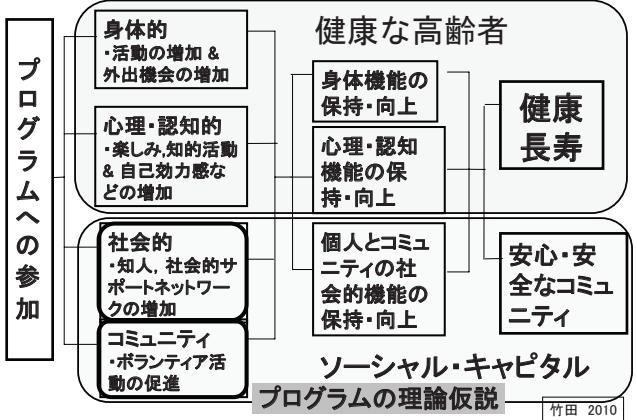


- 人口約4万人 高齢化率19% (2010)
 - 自由な発想で多彩なメニュー
 - 個人プラス環境に介入
 - * 小規模でも近くに拠点を整備してアクセスを改善
 - * 住民参加型 サービス提供側へ
 - 2007年度3会場で開所
 - 2008年度2会場で開所
 - 2009年度2会場で開所
 - 2011年1月1会場開所 計8会場
 - 月1～2回開催 90分～2時間
 - 1回平均55名～60名参加
- 2006年:武豊プロジェクト
竹田参画
2007年:サロン開所
お元気チェック・
ボランティア研修
毎年実施
2008年:福寿大学にて町民
に隔年で結果等報告
以降これまでに複数教員・
学生が継続開与

年度別サロン実参加者・ボランティア数推移

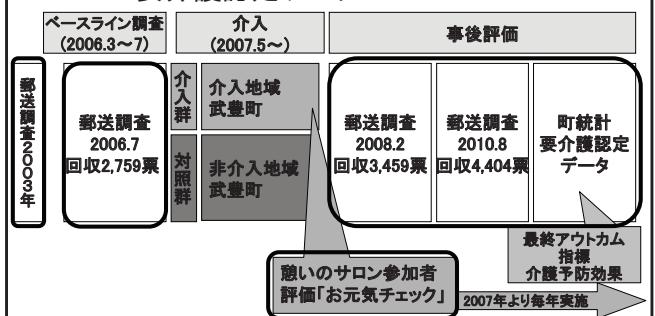


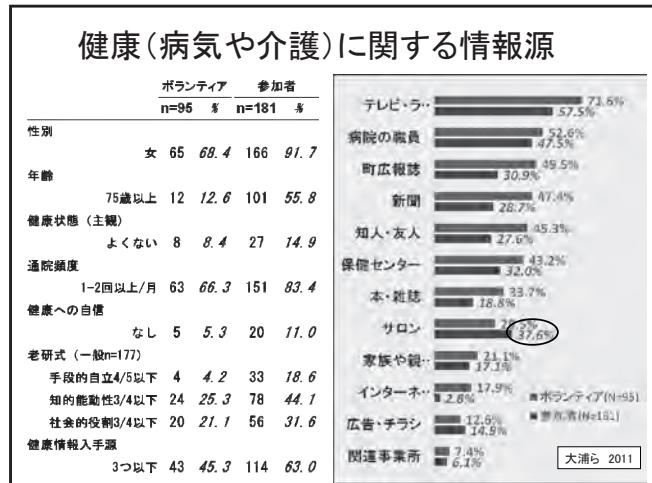
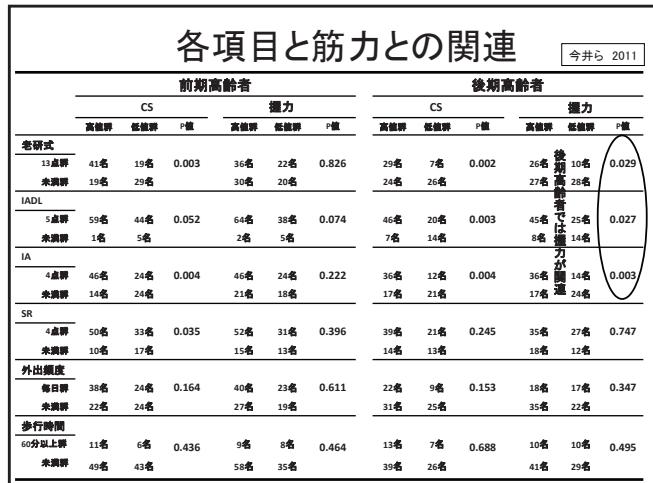
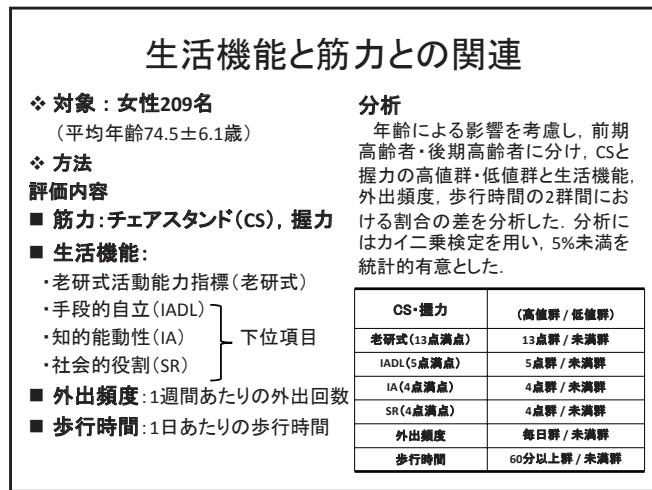
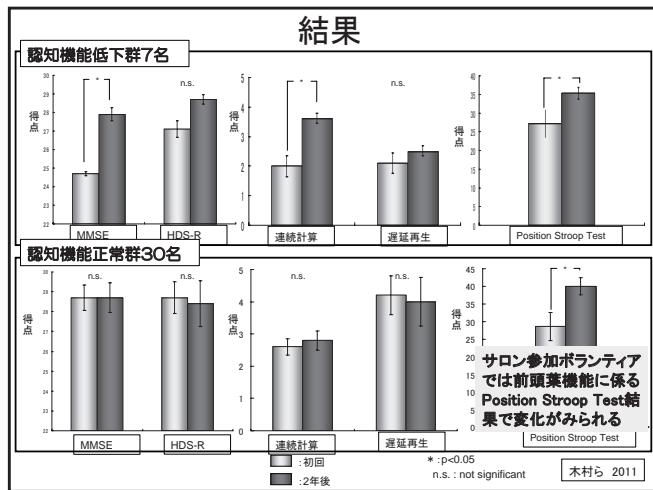
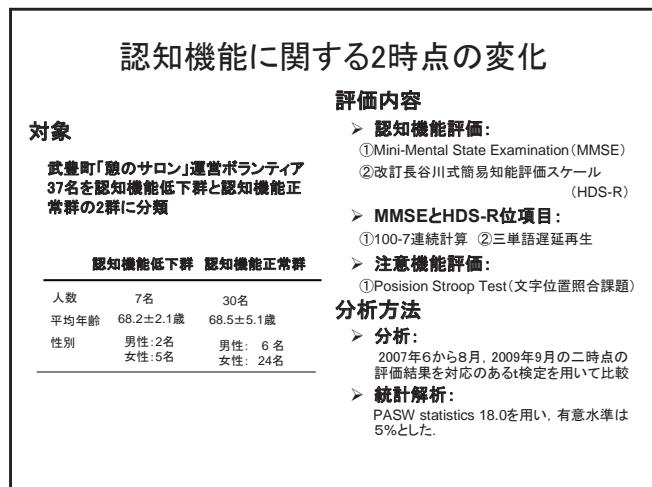
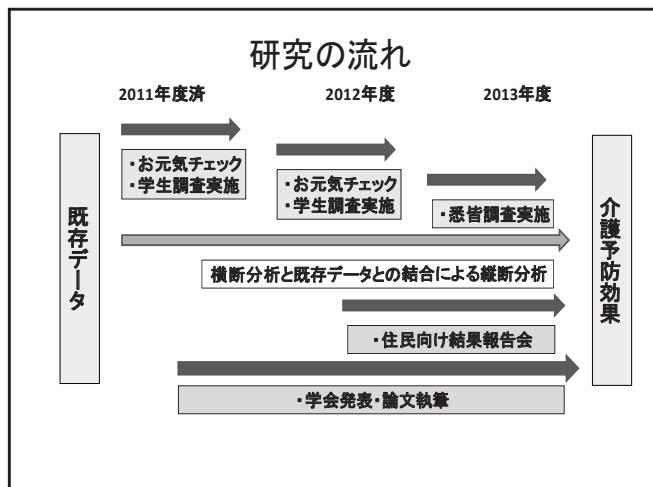
介入→中間アウトカム→最終アウトカム

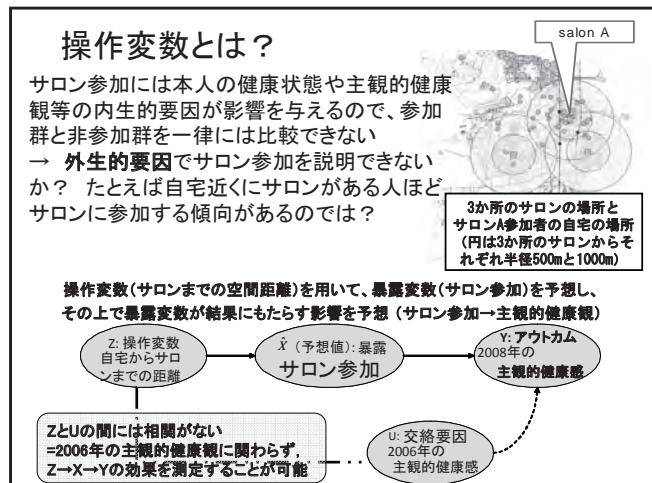
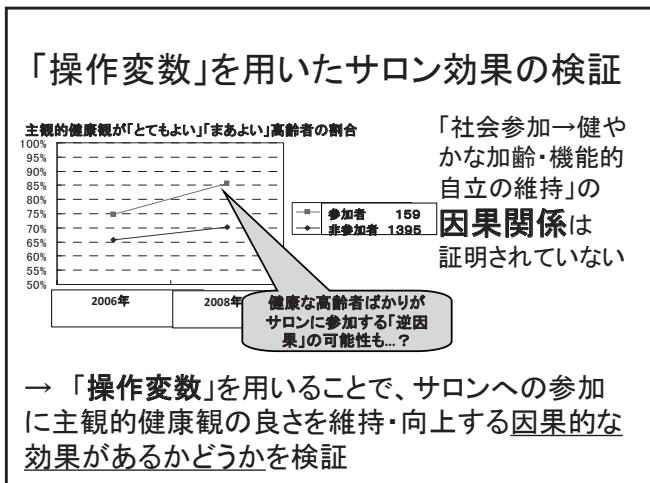
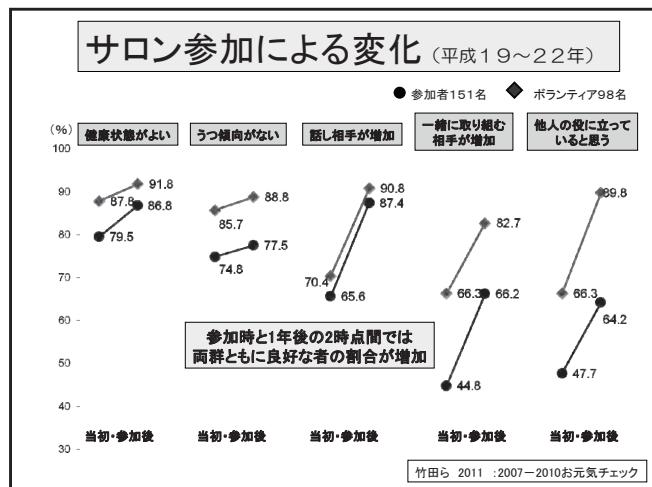
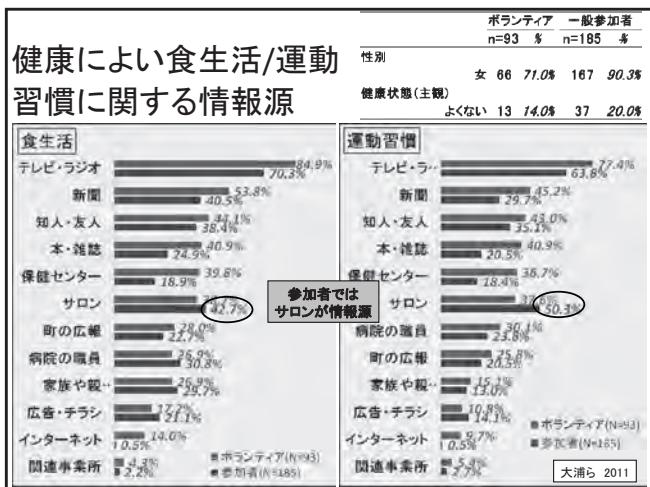


対象と方法

- 愛知県武豊町地域在住高齢者
- 悉皆調査およびサロン参加者評価
- 要介護認定データ







分析結果

Model 4 Bayesian Predictive

Dependent Var	b1_smt2008 (equation 1)	Participation (equation 2)
constant	0.001 (0.106)	1.844 (0.107) *
bi_smt	1.346 (0.064) *	0.375 (0.024) *
male	-0.051 (0.056)	0.049 (0.102) *
age65-74	-0.231 (0.284)	reference
age75-79	-0.460 (0.151) *	age65-74 0.230 (0.059) *
age80-84	-0.335 (0.102)	age75-79 0.210 (0.170)
age85+	-0.618 (0.090) *	age80-84 0.247 (0.264)
enpv_inc_159-225	0.020 (0.003)	age85+ -0.191 (0.207)
enpv_inc_226-275	-0.119 (0.161)	age90- <159 0.022 (0.019)
enpv_inc_276-325	0.167 (0.070) *	age90- <159 0.070 (0.032) *
enpv_inc_326-375	reference reference	age90- <159 0.031 (0.142)
enpv_inc_376-425	0.023 (0.021)	age90- <159 0.115 (0.059)
participation	reference reference	reference

• 自宅からサロンまでの距離が近い人ほど
- サロン参加率が有意に高い
- 2008年の主観的健康観が有意に高い
⇒ 参加により主観的健康感が「よい」になる
オッズ比 2.47 (95%信頼区間: 2.15 - 2.82)
⇒ サロンが自宅の近くにできると高齢者の社会参加が促され、その結果として主観的健康観が維持・向上することが示唆された

竹田ら 2011

まとめ・今後の取り組み

- ・住民が運営主体で展開の多拠点型サロンを活用することで、健康に良いとされる社会的ネットワーク・各サポート、主観的健康感などが良好になる可能性が確認できた。
- ・現在、サロン展開前後の要介護認定率や参加有無別とサロンのある地域とそうでない地域間での健康関連指標については分析中である。
- ・本研究への学生参加によってもたらされる教育効果・課題については、平成23・24年度の2年度分の分析を踏まえて今後報告予定である。
- ・引き続き調査と分析を継続していく。

4 — 2 — 2

<健康支援領域>

(2)

成人知的障害者の健康増進活動に対する
理学療法士介入効果の検証について

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

成人知的障害者の健康増進活動に対する理学療法介入効果の検証について ～成人知的障害者を取り巻く健康問題とその対策について～

阿部友和¹⁾, 江西一成¹⁾, 渡辺一夫²⁾

1)星城大学リハビリテーション学部理学療法学専攻
2)知的障害者就労移行支援事業・就労継続支援B型
生活介護事業 さつき福祉社会あじさい

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

背景

社会福祉領域では知的障害者の生活習慣病の高罹患が問題となっている（菅野2006）

●以前、死因の多くはてんかん、摂食嚥下障害、頸髄損傷等、原疾患が起因となるものが多かったのにに対し……
●近年、死因の多くは原疾患に関係ない生活習慣病によるものが増えた
→若年期に罹患することが多い（高木2005）（後藤2001）

“知的障害者の生活習慣病罹患の若年化”
(高木ら2005, 小島ら2005, 後藤2001)

具体的的な方策は講じられていない

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

背景

“知的障害者の生活習慣病罹患の若年化”の原因

ライフステージの変化（菅野2006）

※10代後半で学校での支援が終了し、それ以後から就労支援が始まるなど栄養管理は自己管理となる
※就労支援の内容は低活動の作業が多く、活動量・運動量の管理がしにくい環境となる

就労支援以降、過度な栄養摂取と低活動環境となる

環境の変化が生活習慣病罹患の引き金になるとともに、メタボリック・ロコモティブシンドロームの誘発因子につながることは容易に想像できる

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

さつき福祉社会あじさい介護職員からの相談内容

知的障害者の利用者の多くが……

- 階段を上るのに手すりが必要である
- 15分くらい続けて歩けない
- 片足立ちで靴下がはけないため介助の必要数が増えた
- 横断歩道を青信号で渡りきれない

…etc

ロコモティブシンドロームと思われる諸症状によって利用者の活動量が著しく低下している

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

さつき福祉社会あじさい介護職員からの相談内容

介護職員のヒアリングの結果

- 就労移行支援事業所の特性上…
利用者の日々の活動量、運動量は軽作業・運動でしか対応ができるない
- 複雑な病態の特徴上…
詳細な身体的問題点（耐久性、関節可動域、筋力、疼痛、柔軟性）が明らかにされていない（できない）

施設の特性（環境要因）と複雑な病態（病態要因）から問題点の把握、対策を講じることが難しい

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

目的

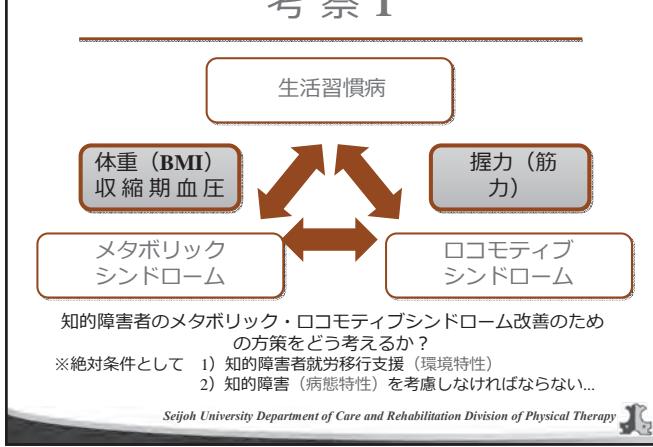
- 成人知的障害者の健康状態を医学的情報（健康診断+体力テスト）から明らかにし、メタボリック・ロコモティブシンドローム罹患状況を確認する
- 知的障害者の健康維持増進のための理学療法介入戦略を検討する

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)																																																																																																																																																																																
対象																																																																																																																																																																																
成人知的障害者で概ね職員との意思疎通が可能な11名																																																																																																																																																																																
<table border="1"> <thead> <tr><th>No</th><th>名前</th><th>性別</th><th>年齢</th><th>身長</th><th>体重</th><th>診断名</th><th>療育手帳</th><th>認定区分</th><th>生活場所</th><th>合併症</th><th>愁訴</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Case1</td><td>男</td><td>25</td><td>146.4</td><td>60.5</td><td>知的障害 グラン症</td><td>A</td><td>3</td><td>自宅</td><td>糖尿病 痛風</td><td>運動不足</td></tr> <tr><td>2</td><td>Case2</td><td>男</td><td>41</td><td>169.2</td><td>102</td><td>知的障害 体幹機能障害</td><td>C</td><td>2</td><td>自宅</td><td></td><td>運動不足</td></tr> <tr><td>3</td><td>Case3</td><td>男</td><td>40</td><td>164.9</td><td>91</td><td>知的障害</td><td>A</td><td>3</td><td>自宅</td><td>高脂血症</td><td>肥満</td></tr> <tr><td>4</td><td>Case4</td><td>男</td><td>54</td><td>164.5</td><td>76.4</td><td>知的障害</td><td>B</td><td>1</td><td>自宅</td><td>糖尿病 腰痛</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>Case5</td><td>男</td><td>22</td><td>170.2</td><td>97.5</td><td>知的障害</td><td>B</td><td></td><td>自宅</td><td>糖尿病</td><td>運動不足 肥満</td></tr> <tr><td>6</td><td>Case6</td><td>男</td><td>20</td><td>183.5</td><td>92.5</td><td>知的障害 自閉症</td><td>A</td><td>2</td><td>自宅</td><td>運動不足 不規則栄養</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>Case7</td><td>男</td><td>35</td><td>166.1</td><td>77</td><td>知的障害 自閉症</td><td>A</td><td>4</td><td>自宅</td><td>てんかん</td><td>運動不足 安定期有</td></tr> <tr><td>8</td><td>Case8</td><td>女</td><td>19</td><td>142.4</td><td>56.3</td><td>知的障害 ダウン症</td><td>A</td><td>3</td><td>自宅</td><td>ホルモン注射月1回</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>Case9</td><td>女</td><td>43</td><td>139.1</td><td>62.4</td><td>知的障害</td><td>B</td><td>2</td><td>自宅</td><td>糖尿病</td><td>下肢に麻痺有</td></tr> <tr><td>10</td><td>Case10</td><td>女</td><td>36</td><td>149.1</td><td>54</td><td>知的障害</td><td>B</td><td>3</td><td>自宅</td><td></td><td>運動不足</td></tr> <tr><td>11</td><td>Case11</td><td>女</td><td>19</td><td>152.5</td><td>63</td><td>知的障害 自閉症</td><td>A</td><td>4</td><td>自宅</td><td></td><td>運動不足</td></tr> <tr><td colspan="3">平均</td><td>37.72</td><td>159.0</td><td>72.5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>11.86</td><td>13.7</td><td>15.7</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											No	名前	性別	年齢	身長	体重	診断名	療育手帳	認定区分	生活場所	合併症	愁訴	1	Case1	男	25	146.4	60.5	知的障害 グラン症	A	3	自宅	糖尿病 痛風	運動不足	2	Case2	男	41	169.2	102	知的障害 体幹機能障害	C	2	自宅		運動不足	3	Case3	男	40	164.9	91	知的障害	A	3	自宅	高脂血症	肥満	4	Case4	男	54	164.5	76.4	知的障害	B	1	自宅	糖尿病 腰痛		5	Case5	男	22	170.2	97.5	知的障害	B		自宅	糖尿病	運動不足 肥満	6	Case6	男	20	183.5	92.5	知的障害 自閉症	A	2	自宅	運動不足 不規則栄養		7	Case7	男	35	166.1	77	知的障害 自閉症	A	4	自宅	てんかん	運動不足 安定期有	8	Case8	女	19	142.4	56.3	知的障害 ダウン症	A	3	自宅	ホルモン注射月1回		9	Case9	女	43	139.1	62.4	知的障害	B	2	自宅	糖尿病	下肢に麻痺有	10	Case10	女	36	149.1	54	知的障害	B	3	自宅		運動不足	11	Case11	女	19	152.5	63	知的障害 自閉症	A	4	自宅		運動不足	平均			37.72	159.0	72.5						標準偏差			11.86	13.7	15.7					
No	名前	性別	年齢	身長	体重	診断名	療育手帳	認定区分	生活場所	合併症	愁訴																																																																																																																																																																					
1	Case1	男	25	146.4	60.5	知的障害 グラン症	A	3	自宅	糖尿病 痛風	運動不足																																																																																																																																																																					
2	Case2	男	41	169.2	102	知的障害 体幹機能障害	C	2	自宅		運動不足																																																																																																																																																																					
3	Case3	男	40	164.9	91	知的障害	A	3	自宅	高脂血症	肥満																																																																																																																																																																					
4	Case4	男	54	164.5	76.4	知的障害	B	1	自宅	糖尿病 腰痛																																																																																																																																																																						
5	Case5	男	22	170.2	97.5	知的障害	B		自宅	糖尿病	運動不足 肥満																																																																																																																																																																					
6	Case6	男	20	183.5	92.5	知的障害 自閉症	A	2	自宅	運動不足 不規則栄養																																																																																																																																																																						
7	Case7	男	35	166.1	77	知的障害 自閉症	A	4	自宅	てんかん	運動不足 安定期有																																																																																																																																																																					
8	Case8	女	19	142.4	56.3	知的障害 ダウン症	A	3	自宅	ホルモン注射月1回																																																																																																																																																																						
9	Case9	女	43	139.1	62.4	知的障害	B	2	自宅	糖尿病	下肢に麻痺有																																																																																																																																																																					
10	Case10	女	36	149.1	54	知的障害	B	3	自宅		運動不足																																																																																																																																																																					
11	Case11	女	19	152.5	63	知的障害 自閉症	A	4	自宅		運動不足																																																																																																																																																																					
平均			37.72	159.0	72.5																																																																																																																																																																											
標準偏差			11.86	13.7	15.7																																																																																																																																																																											

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)																																																																																																																																																																																																					
結果 (健康診断)																																																																																																																																																																																																					
成人知的障害者で概ね職員との意思疎通が可能な11名																																																																																																																																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr><th>No</th><th>名前</th><th>性別</th><th>年齢</th><th>身長</th><th>体重</th><th>BMI</th><th>収縮期血圧</th><th>拡張期血圧</th><th>赤血球数</th><th>HDL</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Case1</td><td>男</td><td>25</td><td>146.4</td><td>60.5</td><td>28.5(↑)</td><td>155(↑)</td><td>84(→)</td><td>547(→)</td><td>263(↑)</td></tr> <tr><td>2</td><td>Case2</td><td>男</td><td>41</td><td>169.2</td><td>102</td><td>31.1(↑)</td><td>122(→)</td><td>85(→)</td><td>503(→)</td><td>251(↑)</td></tr> <tr><td>3</td><td>Case3</td><td>男</td><td>40</td><td>164.9</td><td>91</td><td>32.1(↑)</td><td>129(→)</td><td>79(→)</td><td>440(→)</td><td>160(→)</td></tr> <tr><td>4</td><td>Case4</td><td>男</td><td>54</td><td>164.5</td><td>76.4</td><td>28.1(↑)</td><td>131(↑)</td><td>83(→)</td><td>490(→)</td><td>229(↑)</td></tr> <tr><td>5</td><td>Case5</td><td>男</td><td>22</td><td>170.2</td><td>97.5</td><td>32.4(↑)</td><td>148(↑)</td><td>89(↑)</td><td>525(→)</td><td>186(→)</td></tr> <tr><td>6</td><td>Case6</td><td>男</td><td>20</td><td>183.5</td><td>92.5</td><td>27.6(↑)</td><td>128(→)</td><td>73(→)</td><td>490(→)</td><td>199(→)</td></tr> <tr><td>7</td><td>Case7</td><td>男</td><td>35</td><td>166.1</td><td>77</td><td>27.6(↑)</td><td>128(→)</td><td>74(→)</td><td>431(↑)</td><td>168(↗)</td></tr> <tr><td>8</td><td>Case8</td><td>女</td><td>19</td><td>142.4</td><td>56.3</td><td>26.7(↑)</td><td>108(→)</td><td>65(→)</td><td>510(→)</td><td>180(→)</td></tr> <tr><td>9</td><td>Case9</td><td>女</td><td>43</td><td>139.1</td><td>62.4</td><td>26.9(↑)</td><td>109(→)</td><td>70(→)</td><td>425(→)</td><td>411(→)</td></tr> <tr><td>10</td><td>Case10</td><td>女</td><td>36</td><td>149.1</td><td>54</td><td>26.9(↑)</td><td>110(→)</td><td>74(→)</td><td>434(→)</td><td>187(→)</td></tr> <tr><td>11</td><td>Case11</td><td>女</td><td>19</td><td>152.5</td><td>63</td><td>26.7(↑)</td><td>110(→)</td><td>75(→)</td><td>438(→)</td><td>105(→)</td></tr> <tr><td colspan="3">平均</td><td>37.72</td><td>159.0</td><td>72.5</td><td>28.48</td><td>127.5</td><td>75.82</td><td>474.5</td><td>199.9</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>11.86</td><td>13.7</td><td>15.7</td><td>2.947</td><td>15.31</td><td>10.39</td><td>44.99</td><td>33.06</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>7.16</td><td>1.85</td><td>6.03</td><td>2.05</td><td>24.29</td><td>8.73</td><td>24.58</td><td>28.34</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>1.42</td><td>44.28</td><td>28.34</td><td>14.63</td><td>19.91</td><td>35.95</td><td>24.44</td><td>24.44</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>5.3</td><td>47.71</td><td>47.71</td><td>5.79</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>											No	名前	性別	年齢	身長	体重	BMI	収縮期血圧	拡張期血圧	赤血球数	HDL	1	Case1	男	25	146.4	60.5	28.5(↑)	155(↑)	84(→)	547(→)	263(↑)	2	Case2	男	41	169.2	102	31.1(↑)	122(→)	85(→)	503(→)	251(↑)	3	Case3	男	40	164.9	91	32.1(↑)	129(→)	79(→)	440(→)	160(→)	4	Case4	男	54	164.5	76.4	28.1(↑)	131(↑)	83(→)	490(→)	229(↑)	5	Case5	男	22	170.2	97.5	32.4(↑)	148(↑)	89(↑)	525(→)	186(→)	6	Case6	男	20	183.5	92.5	27.6(↑)	128(→)	73(→)	490(→)	199(→)	7	Case7	男	35	166.1	77	27.6(↑)	128(→)	74(→)	431(↑)	168(↗)	8	Case8	女	19	142.4	56.3	26.7(↑)	108(→)	65(→)	510(→)	180(→)	9	Case9	女	43	139.1	62.4	26.9(↑)	109(→)	70(→)	425(→)	411(→)	10	Case10	女	36	149.1	54	26.9(↑)	110(→)	74(→)	434(→)	187(→)	11	Case11	女	19	152.5	63	26.7(↑)	110(→)	75(→)	438(→)	105(→)	平均			37.72	159.0	72.5	28.48	127.5	75.82	474.5	199.9	標準偏差			11.86	13.7	15.7	2.947	15.31	10.39	44.99	33.06	標準偏差			7.16	1.85	6.03	2.05	24.29	8.73	24.58	28.34	標準偏差			1.42	44.28	28.34	14.63	19.91	35.95	24.44	24.44	標準偏差			5.3	47.71	47.71	5.79				
No	名前	性別	年齢	身長	体重	BMI	収縮期血圧	拡張期血圧	赤血球数	HDL																																																																																																																																																																																											
1	Case1	男	25	146.4	60.5	28.5(↑)	155(↑)	84(→)	547(→)	263(↑)																																																																																																																																																																																											
2	Case2	男	41	169.2	102	31.1(↑)	122(→)	85(→)	503(→)	251(↑)																																																																																																																																																																																											
3	Case3	男	40	164.9	91	32.1(↑)	129(→)	79(→)	440(→)	160(→)																																																																																																																																																																																											
4	Case4	男	54	164.5	76.4	28.1(↑)	131(↑)	83(→)	490(→)	229(↑)																																																																																																																																																																																											
5	Case5	男	22	170.2	97.5	32.4(↑)	148(↑)	89(↑)	525(→)	186(→)																																																																																																																																																																																											
6	Case6	男	20	183.5	92.5	27.6(↑)	128(→)	73(→)	490(→)	199(→)																																																																																																																																																																																											
7	Case7	男	35	166.1	77	27.6(↑)	128(→)	74(→)	431(↑)	168(↗)																																																																																																																																																																																											
8	Case8	女	19	142.4	56.3	26.7(↑)	108(→)	65(→)	510(→)	180(→)																																																																																																																																																																																											
9	Case9	女	43	139.1	62.4	26.9(↑)	109(→)	70(→)	425(→)	411(→)																																																																																																																																																																																											
10	Case10	女	36	149.1	54	26.9(↑)	110(→)	74(→)	434(→)	187(→)																																																																																																																																																																																											
11	Case11	女	19	152.5	63	26.7(↑)	110(→)	75(→)	438(→)	105(→)																																																																																																																																																																																											
平均			37.72	159.0	72.5	28.48	127.5	75.82	474.5	199.9																																																																																																																																																																																											
標準偏差			11.86	13.7	15.7	2.947	15.31	10.39	44.99	33.06																																																																																																																																																																																											
標準偏差			7.16	1.85	6.03	2.05	24.29	8.73	24.58	28.34																																																																																																																																																																																											
標準偏差			1.42	44.28	28.34	14.63	19.91	35.95	24.44	24.44																																																																																																																																																																																											
標準偏差			5.3	47.71	47.71	5.79																																																																																																																																																																																															

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)																																																																																																																																																																																																									
結果 (体力テスト)																																																																																																																																																																																																									
AAHPERD式機能的体力テスト ※ 中高齢知的障害者の機能的体力について (島田ら2000) 全米レクリエーション・連盟式高齢者用機能的体力検査																																																																																																																																																																																																									
<table border="1"> <thead> <tr><th>No</th><th>名前</th><th>性別</th><th>年齢</th><th>長座位 体前屈</th><th>バランス 歩行</th><th>畠瀬吉 運動回数</th><th>腕屈伸統 運動回数</th><th>握力</th><th>背筋力</th><th>開脚片足 立ち</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Case1</td><td>男</td><td>25</td><td>-6.50 (↓)</td><td>7.35 (↑)</td><td>26.38 (↑)</td><td>18.00 (↑)</td><td>14.23 (↑)</td><td>24.00 (↑)</td><td>60.00 (↑)</td><td>28.60 (↑)</td></tr> <tr><td>2</td><td>Case2</td><td>男</td><td>41</td><td>-23.00 (↓)</td><td>6.84 (↓)</td><td>13.42 (↑)</td><td>15.00 (↑)</td><td>41.03 (↑)</td><td>46.50 (↑)</td><td>75.00 (↑)</td><td>119.25 (↑)</td></tr> <tr><td>3</td><td>Case3</td><td>男</td><td>40</td><td>-23.25 (↓)</td><td>10.43 (↑)</td><td>25.35 (↓)</td><td>9.00 (↓)</td><td>25.58 (↑)</td><td>28.25 (↑)</td><td>18.50 (↓)</td><td>44.00 (↑)</td></tr> <tr><td>4</td><td>Case4</td><td>男</td><td>54</td><td>-20.25 (↓)</td><td>3.82 (↓)</td><td>11.06 (↑)</td><td>21.00 (↑)</td><td>33.03 (↑)</td><td>84.00 (↑)</td><td>31.75 (↓)</td><td>112.75 (↑)</td></tr> <tr><td>5</td><td>Case5</td><td>男</td><td>22</td><td>-7.00 (↓)</td><td>4.25 (↓)</td><td>8.20 (↑)</td><td>27.00 (↑)</td><td>36.20 (↑)</td><td>78.75 (↑)</td><td>80.25 (↑)</td><td>129.25 (↑)</td></tr> <tr><td>6</td><td>Case6</td><td>男</td><td>20</td><td>-23.75 (↓)</td><td>5.05 (↓)</td><td>12.54 (↑)</td><td>18.00 (↑)</td><td>26.50 (↑)</td><td>26.25 (↓)</td><td>143.00 (↑)</td><td>107.00 (↑)</td></tr> <tr><td>7</td><td>Case7</td><td>男</td><td>35</td><td>-14.50 (↓)</td><td>6.55 (↓)</td><td>15.67 (↑)</td><td>10.85 (↓)</td><td>37.75 (↑)</td><td>37.75 (↑)</td><td>75.00 (↑)</td><td>32.45 (↑)</td></tr> <tr><td>8</td><td>Case8</td><td>女</td><td>19</td><td>-5.75 (↓)</td><td>5.96 (↓)</td><td>23.87 (↑)</td><td>8.00 (↓)</td><td>6.98 (↓)</td><td>8.25 (↓)</td><td>5.50 (↓)</td><td>29.15 (↑)</td></tr> <tr><td>9</td><td>Case9</td><td>女</td><td>43</td><td>-11.25 (↓)</td><td>6.01 (↓)</td><td>10.35 (↑)</td><td>17.00 (↑)</td><td>20.03 (↑)</td><td>55.00 (↑)</td><td>52.00 (↑)</td><td>57.20 (↑)</td></tr> <tr><td>10</td><td>Case10</td><td>女</td><td>36</td><td>-7.25 (↓)</td><td>6.01 (↓)</td><td>16.81 (↑)</td><td>18.00 (↑)</td><td>18.45 (↓)</td><td>31.75 (↑)</td><td>40.75 (↑)</td><td>43.95 (↑)</td></tr> <tr><td>11</td><td>Case11</td><td>女</td><td>19</td><td>-16.25 (↓)</td><td>7.43 (↓)</td><td>23.35 (↑)</td><td>10.00 (↓)</td><td>7.58 (↓)</td><td>24.50 (↑)</td><td>11.50 (↓)</td><td>35.75 (↑)</td></tr> <tr><td colspan="3">平均</td><td>37.72</td><td>-15.25</td><td>6.23</td><td>16.06</td><td>15.39</td><td>25.31</td><td>42.10</td><td>53.33</td><td>71.08</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>11.86</td><td>7.16</td><td>1.85</td><td>6.15</td><td>6.03</td><td>12.05</td><td>24.29</td><td>41.61</td><td>40.68</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>1.42</td><td>44.28</td><td>28.34</td><td>14.63</td><td>19.91</td><td>35.95</td><td>24.44</td><td>24.44</td><td>5.79</td></tr> <tr><td colspan="3">標準偏差</td><td>1.42</td><td>44.28</td><td>28.34</td><td>14.63</td><td>19.91</td><td>35.95</td><td>24.44</td><td>24.44</td><td>5.79</td></tr> </tbody> </table>											No	名前	性別	年齢	長座位 体前屈	バランス 歩行	畠瀬吉 運動回数	腕屈伸統 運動回数	握力	背筋力	開脚片足 立ち	1	Case1	男	25	-6.50 (↓)	7.35 (↑)	26.38 (↑)	18.00 (↑)	14.23 (↑)	24.00 (↑)	60.00 (↑)	28.60 (↑)	2	Case2	男	41	-23.00 (↓)	6.84 (↓)	13.42 (↑)	15.00 (↑)	41.03 (↑)	46.50 (↑)	75.00 (↑)	119.25 (↑)	3	Case3	男	40	-23.25 (↓)	10.43 (↑)	25.35 (↓)	9.00 (↓)	25.58 (↑)	28.25 (↑)	18.50 (↓)	44.00 (↑)	4	Case4	男	54	-20.25 (↓)	3.82 (↓)	11.06 (↑)	21.00 (↑)	33.03 (↑)	84.00 (↑)	31.75 (↓)	112.75 (↑)	5	Case5	男	22	-7.00 (↓)	4.25 (↓)	8.20 (↑)	27.00 (↑)	36.20 (↑)	78.75 (↑)	80.25 (↑)	129.25 (↑)	6	Case6	男	20	-23.75 (↓)	5.05 (↓)	12.54 (↑)	18.00 (↑)	26.50 (↑)	26.25 (↓)	143.00 (↑)	107.00 (↑)	7	Case7	男	35	-14.50 (↓)	6.55 (↓)	15.67 (↑)	10.85 (↓)	37.75 (↑)	37.75 (↑)	75.00 (↑)	32.45 (↑)	8	Case8	女	19	-5.75 (↓)	5.96 (↓)	23.87 (↑)	8.00 (↓)	6.98 (↓)	8.25 (↓)	5.50 (↓)	29.15 (↑)	9	Case9	女	43	-11.25 (↓)	6.01 (↓)	10.35 (↑)	17.00 (↑)	20.03 (↑)	55.00 (↑)	52.00 (↑)	57.20 (↑)	10	Case10	女	36	-7.25 (↓)	6.01 (↓)	16.81 (↑)	18.00 (↑)	18.45 (↓)	31.75 (↑)	40.75 (↑)	43.95 (↑)	11	Case11	女	19	-16.25 (↓)	7.43 (↓)	23.35 (↑)	10.00 (↓)	7.58 (↓)	24.50 (↑)	11.50 (↓)	35.75 (↑)	平均			37.72	-15.25	6.23	16.06	15.39	25.31	42.10	53.33	71.08	標準偏差			11.86	7.16	1.85	6.15	6.03	12.05	24.29	41.61	40.68	標準偏差			1.42	44.28	28.34	14.63	19.91	35.95	24.44	24.44	5.79	標準偏差			1.42	44.28	28.34	14.63	19.91	35.95	24.44	24.44	5.79
No	名前	性別	年齢	長座位 体前屈	バランス 歩行	畠瀬吉 運動回数	腕屈伸統 運動回数	握力	背筋力	開脚片足 立ち																																																																																																																																																																																															
1	Case1	男	25	-6.50 (↓)	7.35 (↑)	26.38 (↑)	18.00 (↑)	14.23 (↑)	24.00 (↑)	60.00 (↑)	28.60 (↑)																																																																																																																																																																																														
2	Case2	男	41	-23.00 (↓)	6.84 (↓)	13.42 (↑)	15.00 (↑)	41.03 (↑)	46.50 (↑)	75.00 (↑)	119.25 (↑)																																																																																																																																																																																														
3	Case3	男	40	-23.25 (↓)	10.43 (↑)	25.35 (↓)	9.00 (↓)	25.58 (↑)	28.25 (↑)	18.50 (↓)	44.00 (↑)																																																																																																																																																																																														
4	Case4	男	54	-20.25 (↓)	3.82 (↓)	11.06 (↑)	21.00 (↑)	33.03 (↑)	84.00 (↑)	31.75 (↓)	112.75 (↑)																																																																																																																																																																																														
5	Case5	男	22	-7.00 (↓)	4.25 (↓)	8.20 (↑)	27.00 (↑)	36.20 (↑)	78.75 (↑)	80.25 (↑)	129.25 (↑)																																																																																																																																																																																														
6	Case6	男	20	-23.75 (↓)	5.05 (↓)	12.54 (↑)	18.00 (↑)	26.50 (↑)	26.25 (↓)	143.00 (↑)	107.00 (↑)																																																																																																																																																																																														
7	Case7	男	35	-14.50 (↓)	6.55 (↓)	15.67 (↑)	10.85 (↓)	37.75 (↑)	37.75 (↑)	75.00 (↑)	32.45 (↑)																																																																																																																																																																																														
8	Case8	女	19	-5.75 (↓)	5.96 (↓)	23.87 (↑)	8.00 (↓)	6.98 (↓)	8.25 (↓)	5.50 (↓)	29.15 (↑)																																																																																																																																																																																														
9	Case9	女	43	-11.25 (↓)	6.01 (↓)	10.35 (↑)	17.00 (↑)	20.03 (↑)	55.00 (↑)	52.00 (↑)	57.20 (↑)																																																																																																																																																																																														
10	Case10	女	36	-7.25 (↓)	6.01 (↓)	16.81 (↑)	18.00 (↑)	18.45 (↓)	31.75 (↑)	40.75 (↑)	43.95 (↑)																																																																																																																																																																																														
11	Case11	女	19	-16.25 (↓)	7.43 (↓)	23.35 (↑)	10.00 (↓)	7.58 (↓)	24.50 (↑)	11.50 (↓)	35.75 (↑)																																																																																																																																																																																														
平均			37.72	-15.25	6.23	16.06	15.39	25.31	42.10	53.33	71.08																																																																																																																																																																																														
標準偏差			11.86	7.16	1.85	6.15	6.03	12.05	24.29	41.61	40.68																																																																																																																																																																																														
標準偏差			1.42	44.28	28.34	14.63	19.91	35.95	24.44	24.44	5.79																																																																																																																																																																																														
標準偏差			1.42	44.28	28.34	14.63	19.91	35.95	24.44	24.44	5.79																																																																																																																																																																																														



平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

考察2

自分づくり教育
領域

活動性を上げるための
就労内容の検討

健康支援
領域

職員・人員への教育

地域コミュニティ
との連携事業

元気
創造

グローカル社会
領域

- 知的障害者の健康支援は専門家の介入とそれを実行する人材による病態特性への働きかけ
- 知的障害者を支える地域連携、地域拠点の構築による環境要因への働きかけが重要

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

平成23年度 元気創造研究センター助成研究報告会 3/21 (水)

結語

- 成人知的障害者を取り巻く健康問題とその対策について検証するために、健康診断+体力テストを実施し、理学療法介入について具体的戦略を検討した
- 成人知的障害者の健康状態は肥満、脂質異常症、筋力低下を有することが確認され、その対策として病態要因、環境要因の関与が考えられた
- 成人知的障害者の健康維持増進活動には理学療法士をはじめとした専門家によるアドバイスをきっかけに、星城大学アドバイザーミーティングを利用した人材の確保・教育、そして地域連携が重要なものと思われる

Seijo University Department of Care and Rehabilitation Division of Physical Therapy

4 — 2 — 2

<健康支援領域>

(3)

市民マラソン参加者における運動支援が
健康上にもたらす効果の検証

平成23年度元気創造研究センター助成研究報告
市民マラソン参加者における運動支援が
健康上にもたらす効果の検証

・研究代表者

星城大学 リハビリテーション学部
助教 松岡 文三

・分担研究者

同 教授 江西 一成
同 教授 安倍 基幸

【緒言】

健康志向の高まりの中、走行距離の短い市民マラソンへ参加する一般国民が増加傾向。

フルマラソンや
ハーフマラソン
の場合

筋骨格器系のトラブルの報告が散見

しかし

市民ランナーの実態を十分に調査した報告はない

【目的】

健康上にもたらす効果の検証として、

10km市民ランナーにおける下肢筋の疼痛発生状況を調べ、エコーを用いて同部の病理・構造学的所見を観察し、選手のコンディショニングの検討を行う。

【対象】

10km持久走大会に参加した大学生
47名(男性32名、女性15名)の下肢

年齢:20.7±0.5 歳

身長:166.7±8.0 cm

体重:59.3±8.2 kg

大会名:東海シティマラソン(愛知県)
開催日:2010年12月12日

2011年12月11日

当日の天候:晴れ

【方法】

持久走大会終了後、同日中に以下の項目を評価した

①自覚的運動強度(Ratings of Perceived Exertion:RPE)
どの位全力で大会に参加したかを調査(範囲:6~20)

②疼痛の有無・部位

ボディチャートを利用した自己申告



③疼痛部をBモードエコーにて観察
(東芝メディカル社製 Xario)

プローブを短軸と長軸で当て、
筋損傷、筋膜炎、腱炎の所見を観察

エコー観察

【結果】

①自覚的運動強度

男性:中央値 19(範囲 13~20)

女性:中央値 20(範囲 13~20)



完走タイム

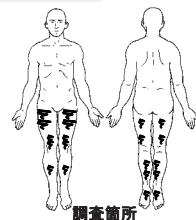
男性:54.2±7.4分

女性:60.4±4.7分

②下肢疼痛の自己申告による調査

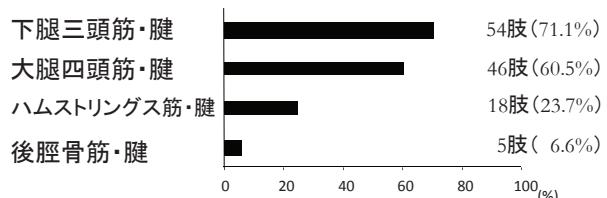
疼痛の有無

76/94肢(81%)で発生



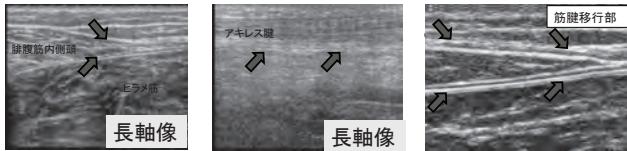
調査箇所

筋・腱痛の発生部位と割合(76肢中)



③疼痛部位のエコー所見

下腿三頭筋・腱
21/59箇所(36%)

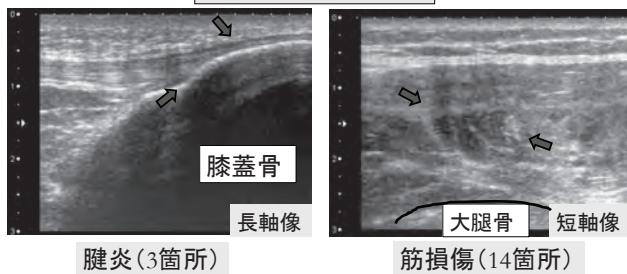


筋損傷(19箇所)

腱炎(2箇所)

筋膜炎(7箇所)

大腿四頭筋・腱
17/54箇所(32%)



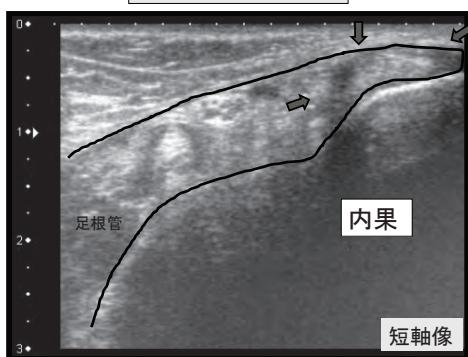
腱炎(3箇所)

筋損傷(14箇所)

ハムストリングス筋・腱
2/18箇所(11%)

筋損傷(2箇所)

後脛骨筋・腱
3/4箇所(75%)



腱炎(3箇所)

【考察】

10km市民持久走大会
気軽に参加が可能

若年健常者
体力十分
無理が可能

疼痛発生 76/94肢(81%)
特に下腿三頭筋(72%)

エコー上所見: 45/143箇所(31.5%)

筋や腱のコンディショニングに留意する必要

【来年度に向けて】

143箇所中45箇所でエコー急性と考えられる
腱周囲の低エコーソー見や、筋繊維の乱れを
観察。



特に、羽状筋の腱成分部分の付着部で筋
断裂の所見、筋腹で筋断裂・筋損傷・血腫
の所見



対象数を増やして、発生頻度に関して
統計学的検討を行っていく必要がある。

【まとめ】

- 市民ランナーにおける下肢筋の疼痛、およびエコーソー見を調査した。
- 疼痛は80.9%で認め、なかでも下腿三頭筋(71.1%)、大腿四頭筋(60.5%)で高頻度であった。
- エコーソー見を疼痛箇所の31.5%で認め、その所見は、筋損傷(30箇所)、腱炎(10箇所)、筋膜炎(7箇所)であった。
- 以上より、市民持久走大会参加にあたっては、筋や腱のコンディショニングに留意すべきであることが示唆された。

4 — 2 — 3

＜グローカル社会領域＞

ローカル・スマートコミュニティ形成

に向けた考察

平成 23 年度元気創造研究センター助成研究報告

1. 研究テーマ：ローカル・スマートコミュニティ形成に向けた考察
2. 研究代表者名：秋山健太郎
3. 分担研究者名：鈴木愛一郎

4. 平成 23 年度の研究報告内容

4-1. 目的

日本の産業は、現在、

- ①エネルギーの安定的な確保
- ②低炭素社会への移行
- ③産業の再生

という 3 つの大きな課題に直面している。これらを同時に解決するものとして、スマートグリッド、さらにはスマートコミュニティが注目され、早期に導入していくことは、極めて重要である。本研究では、この分野の米国、欧州等の先進事例を、エネルギー政策や技術面からのみならず、投資プロジェクトという視点からも考察し、地域社会への適用が可能かどうか検討する。とくに東海市、大府市などの近隣の地域社会への適用を検討することで、問題点の抽出、解決策の提示などの点にも触れる。

4-2. 研究調査結果（文献調査）

(1) スマートグリッド、スマートコミュニティ、スマートシティ、スマートモビリティの違い。

- ①スマートグリッド

RE, EV, IT

- ②スマートコミュニティ（スマートコミュニティ事業 2010 年 経済産業省）

- ・ RE : 太陽光、風力、太陽熱、バイオマス
- ・ EV : 電気自動車、PHV、バッテリー、蓄熱、充電スタンド
ビル、工場、家庭（電気機器）
- ・ IT : クラウド、EMS、HEMS、BEMS

*鉄道、水システム

- ③スマートシティ（環境未来都市構想 2011 年 国）

- ・エネルギー
- ・交通
- ・安心・安全、教育、医療、行政

*不動産開発

③スマートモビリティ

*自動車メーカーの視点

(2)日本と世界の動向

①国内→横浜、豊田、けいはんな学園都市、北九州の4都市で 2010～2015 年、1000 億円で開発。

②海外ジョイントプロジェクト→ニューメキシコ、ハワイ、リヨン、マラガ、共青城
関連→トルコ、インドネシア、チュニジア、UAE 等
調整中→ドイツ、イギリス等

③欧州：スマートメーター普及、プロジェクト多数、再生エネルギーの普及拡大によりニーズ大、再生エネルギー法、発送配電分離
デザーテックプロジェクト（北アフリカから EU へのエネルギー回廊）

④米国：電力系統弱い面がある。エネルギーセキュリティ、発送配電分離、オバマのグリーンニューディール

⑤中国：600 のスマートシティが動いている

⑥UAE：マスダールシティ

⑦その他：シンガポール、韓国等で活発に開発。

4-3. 今回の現地調査結果

(1)マラガ市（スペイン）

エンデサ・スマートシティ→デマンド・サイドマネジメント実証中（写真 1）。

- ・景観に配慮した再生エネルギー（写真 2、3）
- ・再生エネルギー法、発送配電分離
- ・南米への展開（写真 4）
- ・NEDO プロジェクトとのジョイント
大量EV導入、EV管理システム、充電管理システム（電気自動車 200 台導入）

(2)リヨン市（フランス）

リヨン・再開発

グランデリヨン共同体—リヨン再開発公社

Bonygues, Veolia Transdev, Grand Lyon Habitat

- ・景観に配慮した再生エネルギー（写真 5）
- ・ビルディング
- ・自転車のシェア（写真 6）
- ・再生エネルギー法、発送配電分離
- ・NEDO プロジェクトとの結合
P-BIIL、電気自動車のカーシェア、エネルギー監査

(マウイ島 再生可能エネルギーの出力変動による問題解決、EV導入と管理)

(3) 藤沢市 (スマートタウン構想)

パナソニックタウン

(4) 豊田市

- ・スマートハウス (PHV とトヨタハウスの結合)
- ・東山・高橋地区にて販売中

4-4. 大府市、東海市等近隣地区に提案できるもの

◇地方自治体自レベルでやれること

- ・再生エネルギー法への対応 (2012年夏から)
- ・景観に配慮した再生エネルギーの導入 (小さな風力, 太陽光でも)
- ・自転車のシェア, 自動車シェア→電気自動車のシェア
- ・電気自動車とインフラ
- ・P-plot ビルディング, 燃料電池の導入

◇日本企業レベルで行うこと

- ・電気自動車, 充電装置等の国際標準化
- ・スマートコミュニティ全体のシステムにおいて競争優位の確保
- ・グローバル展開
- ・技術立国の再生

◇国レベルで見直しが必要なもの

- ・再生エネルギー法 適正買取価格の設定 (2012年夏から)
- ・制度の検討 発送配電分離等 (総合エネルギー調査会 2012夏)
- ・エネルギーバランス (総合エネルギー調査会 2012夏)

写真1. マラガ・エンデサ・スマートシティ 写真2. 景観に配慮した

ショールーム

風力発電



写真3. 景観に配慮した 太陽光発電



写真4. コルドバ周辺 100MW 太陽熱発電所



写真5. リヨン市再開発地域
建物壁面太陽光発電



写真6. リヨン市内
自転車のシェア



◇投資手法等



シーズ段階から市場化されるまでの各ステージの詳細な模式図。各ステージごとに投資ビーチが異なることを示す。

以 上

4 — 2 — 4

<知識基盤社会領域>

学生スポーツが地域社会の健康増進
に果たすべき役割を考える

平成23年度元気創造研究センター助成研究報告
【知識基盤社会領域】

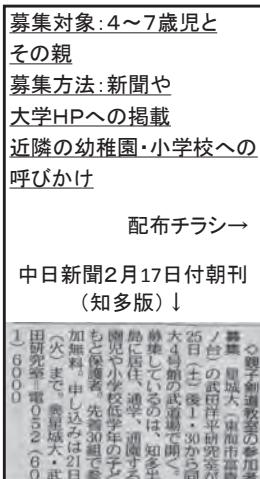
“親と子の剣道教室”
～学生スポーツが地域社会の健康増進に
果たすべき役割を考える～
後援：東海市教育委員会 中日新聞社

研究代表者：武田洋平¹⁾
分担研究者：中川治彦²⁾ 横井康博²⁾ 田中英子²⁾ 古澤麻衣¹⁾
1)星城大学リハビリテーション学部
2)星城大学経営学部

[目的]
地域在住の子どもとその親を対象に、
心身の健康増進を目指した運動教室を、
本学の運動部学生の協力を得て開催し、
子どもと親と学生の視点から、
“地域と大学の役割”を考察する。

日時：平成24年2月25日（土）13:30～16:00
会場：星城大学4号館1階「体育室（武道場）」

[役割分担]
総括：武田洋平 剣道指導：中川治彦
学生指導：横井康博 衛生指導：田中英子
運営担当：古澤麻衣
学生協力：硬式野球部1～3年生



[プログラム]

- 1) 開会のあいさつ(武田)
- 2) 礼儀作法の訓示(中川)
- 3) 運動(横井)
 - ・新聞紙の棒で新聞ボールをたたく
 - ・じゃんけんで打ち合いゲーム
 - ・風船割り・新聞切りなど
- 4) 模範演技と実技指導(中川・古澤)
- 5) 試合をビデオ鑑賞(中川)
- 6) インフルエンザ予防策のお話と手洗い指導(田中)
- 7) お汁粉の振る舞い
- 8) 質問紙調査(古澤)
- 9) 解散





[質問紙調査]

対象者

○保護者:3名(回答率100%)

子供との続柄:父親2名、母親1名

保護者の年齢:30~40代

○学生:18名(回答率100%)

質問項目

○保護者:参加の目的、子どもの健康状態、剣道や礼儀に対する意識など 16項目

○学生:コミュニケーションが円滑に行えたか、意見・感想など 13項目

[質問紙調査結果]

保護者:A氏

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| ①星城大学の周知 | →知っていた |
| ②参加のきっかけ | →幼稚園からの紹介 |
| ③参加の目的 | →子どもとふれあうため、剣道に興味を持ってもらおうと思った |
| ④参加の目的の達成度 | →まあ満足 |
| ⑤剣道を学ばせたいか | →大変そう思う |
| ⑥普段の子どもの様子 | →とても活発的 |
| ⑦子どもの健康状態 | →とても健康 |
| ⑧家族と子どもの遊びの頻度 | →ほとんど毎日 |
| ⑨今回の取り組みは健康増進に役立つか | →役に立つ |
| ⑩子育ての負担や悩み | →子どもを一時的に預けたいときに預け先がない |
| ⑪子育ての相談相手 | →配偶者、友人・知人 |
| ⑫また参加したいか | →まあそう思う |
| ⑬大学に求めること | →今は特にありません |

保護者:B氏

- ①星城大学の周知 →知っていた
- ②参加のきっかけ →幼稚園からの紹介
- ③参加の目的 →子どもが希望したため
- ④参加の目的の達成度 →とても満足
- ⑤剣道を学ばせたいか →まあそう思う
- ⑥普段の子どもの様子 →あまり活発的でない
- ⑦子どもの健康状態 →ふつう
- ⑧家族と子どもの遊びの頻度 →月に1~2回
- ⑨今回の取り組みは健康増進に役立つか →役に立つ
- ⑩子育ての負担や悩み →未記入
- ⑪子育ての相談相手 →医師、保健師、幼稚園の先生
- ⑫また参加したいか →大変そう思う
- ⑬大学に求めること →未記入

保護者:C氏

- ①星城大学の周知 →知っていた
- ②参加のきっかけ →新聞を見て
- ③参加の目的 →子どももふれあうため、大学が近くにあるため、この企画に興味があったため、子どもに体を動かすのが好きになってもらいたい、子どもの礼儀・作法を身につけさせたい、子どもがきびきびした動作ができるように、子どもに武道精神を身につけるため
- ④参加の目的の達成度 →まあ満足
- ⑤剣道を学ばせたいか →まあそう思う
- ⑥普段の子どもの様子 →あまり活発的でない
- ⑦子どもの健康状態 →まあ健康
- ⑧家族と子どもの遊びの頻度 →週に1~2回

[質問紙調査結果]～学生～

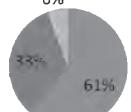
子供とのコミュニケーション
は円滑に行えたか？



保護者とのコミュニケーション
は円滑に行えたか？



自分が思うように子供と接することができたか？



今回の経験から、自分の役割は見出せたか？



満足して活動に取り組めたか？



子供と接して楽しかったか？



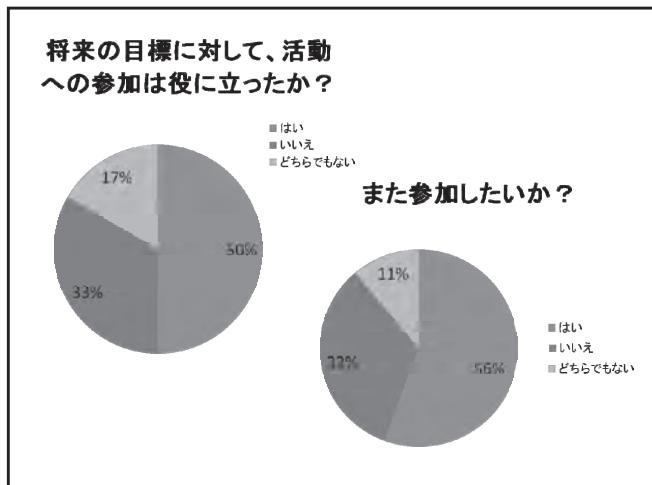
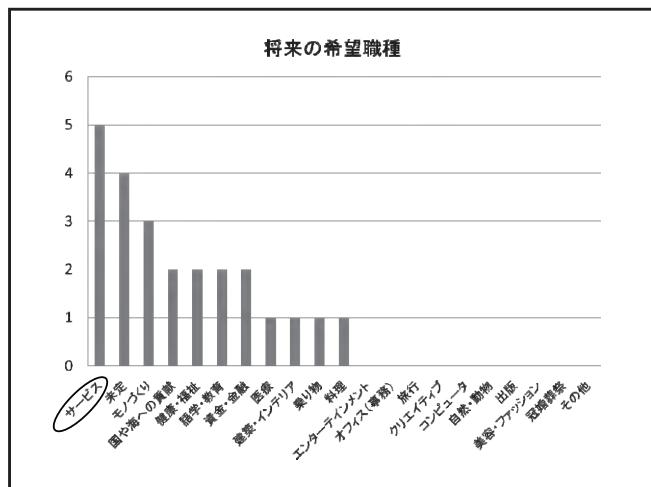
意見・感想

子供たちがスポーツの機会を増やしてほしい	今は人数が少なかったので、次回は多く参加し、剣道をはじめ、色々なスポーツイベントをすることで子供たちにスポーツをする機会を増やしてほしい。
かわいいかった	子供がかわいいかった。 小さい子がかわいいかった。 子供がとてもかわいいかった。癒された。 子供はとてもかわいいかった。 子供がすごくかわいいかった。
笑顔がよかった	子供の笑顔がよかった。 子供と遊ぶことができて楽しかったです。
楽しかった	楽しかった。 子供と一緒に楽しめてよかったです。
教職の人も参加したらよい	中川先生の指導の仕方がお手本になるので教職を取っている人も参加したらよいと思う。
積極的な参加	次回、このような機会があればもっと積極的に参加したい。
子供へのリスク管理	子供は注意力があまりないけど、見ていてすごくかわいいかったです。危ないことをしないかの確認は常に行っていた方がよいと思います。
詰きないようにする	子供が詰きないようにする。
お汁粉は変えた方がよい	子供たちが楽しそうでよかったです。最後のお汁粉は変えた方がいいと思った。
体験できてよかったです	一緒に体験できてよかったです。
もっと集まるよかったです	もっと子供たちが集まるよかったです。

反省点

指導の不十分さ	子供たちがより楽しく剣道をできるように指導ができなかった
流れの把握の不十分さ	スムーズに進行できるように流れをしっかり分かっておくべきだった
参加人数の少なさ	もう少し多くの人に来てもらえばよかったです
行動の不十分さ	メリハリをつけた行動をとれるようにと思った。 楽しかったけど、もっとよくできたらはず。
コミュニケーションの不十分さ	子供とコミュニケーションがとれなかった
プログラムの不十分さ	子供が暇そうだったのでもっと動きがあるのをやった方がよいと思いました。 無駄な時間があった

次回への提案	
参加人数の増加	チラシや呼びかけをして、参加者が多くなるように 1か月前か2か月前に準備する 参加者の集め方を工夫した方がよいと思う もう少し人数を集めるべき。最低限の人数を決めたらいい と思いました。
参加人数・場所の設定	もう少し広い場所にし、参加者の人数を増やしたら良い 思います。 小さい子に興味を持つてもらえることが重要だと思う ビデオは小さい子供が飽きてしまっていたと思いました。
プログラムの内容の改善	もう少し子供と接する時間を増やす 今回は親と子で接する企画でしたが、親と親、子と子でも 行える企画もあるといい。 子供同士の触れ合いがもう少しあるとよいと思います。
事前準備	あらかじめ、プランをホワイトボードに書いておく。 子供の人数が増えると動きや伝達が遅れると思うので 計画をしっかりとする。
子供への対応	リハーサルをもっとしっかりする もう少し子供目線で対応していればもっと楽しめると思う。



[決算報告]

予算:10万円

費目区分	適要	支出金額
消耗品費	竹刀代(6本)	9,000円
消耗品費	風船・テープなど	630円
消耗品費	マスク・手指消毒など	1,392円
材料費	スポーツ飲料・お茶代	7,384円
材料費	お汁粉代	18,000円
合計		36,406円

【考察】

大学は、学生・教職員・地域住民の3者が作り上げる「知遊空間」でなければならない。
今回のイベントでは、その定義を明確にし得たと考える。
ただ反省すべきは、宣伝不足により参加者数が伸びなかつた点にある。
「親子剣道教室」開催の再提案は考えないが、今後、同種のイベントを開催する場合は、綿密な「人寄せ策」を考えねばならないだろう。

5. 広報活動

5 — 1

HP の開設

元気創造研究センター HP の開設

SEIJOH UNIVERSITY WEB SITE
星城大学(ウェブサイト)

English Korean Chinese GB Chinese Big5
お問い合わせ アクセス サイトマップ
文字サイズ 大 中 小 検索

受験生の方 企業・病院の方 卒業生の方 地域・社会の方 保護者の方 学内ページ

元気創造研究センター Center

星城大学の概要 About SEI-JOH 経営学部 Business Administration リハビリテーション学部 Care and Rehabilitation 大学院 Graduate School 入試情報 Admissions 就職関連 Career Placement キャンパスライフ Student Life

HOME > 元気創造研究センター

元気創造研究センター

新着情報

- 2012年01月20日 研究報告会を開催します
- 2011年09月07日 第2回「大学の未来を考える研究会」を開催しました
- 2011年09月02日 【シンポジウム】中日新聞に掲載されました
- 2011年09月01日 公開シンポジウム「グローバル社会と女性のキャリアデザイン」開催しました
- 2011年08月27日 特定非営利活動法人起業支援ネット代表理事 久野美奈子 氏よりシンポジウムへのコメント

一覧を見る

イベント

元気創造研究センターとは

センター長挨拶

地域の方々へ

重点研究領域

資料請求
Pamphlet

◀ BACK ▶ PAGE TOP

5 — 2

メディア掲載（新聞、学園報）

5月28日(土) 本物に 半ば始めの 人作り それは最高 教師の覚悟

昨日は、産業技術記念館見学の後、隣接地にあった「ノリタケの森」も見学。それから、東海市にある星城大学に向かい、夕刻から、この大学の教職課程を受けている学生たちを相手に、「本物の教育、教師」をテーマに講義。



そして引き続き、今日は、この大学に「元気創造研究センター」が設置されたことを記念するシンポジウムが開催された中で、基調講演を行うとともに、パネルディスカッションにも、パネラーとして参加した。

このパネルディスカッションでは、ずいぶん面白い議論も行われた。そして最後には、コーディネーターである水野学長から、取りまとめを兼ねた形での最後の発言をと促されたので、私はこんなことを語った。

「教育の場の主人公は、あくまで教師である。だから、本物の教育を実現しようとするとならば、必然的に、教師が本物にならねばならない。それには、いくつかの条件があるが、やはり教師自身が、本物の教師になると覚悟して取り組んでいくということが何よりも大事ではないだろうか」と。

実は、この東海市というのは、江戸時代第一の教育者と評される、細井平洲の出身地である。その関係で、この日の午前中は、元教育長の深谷さんに、あちこちをご案内していただいた。本物の教育者がいた土地、そこで今、本物の教育が生み出されようとしているということであろうか。

～学園創立70周年記念関連事業～

星城大学元気創造研究センター 開設記念シンポジウム



星城大学では、平成23年4月の元気創造研究センター開設を記念して、5月28日に「本物に学ぶ人づくり」をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

当センター長・水野豊学長(右写真)より「地域貢献の人づくり大学再考」～元気創造研究センター発足に当たって～という内容で、社会貢献を目指す星城大学がそれを実践できる学生の力を育む「人づくり」と教職員が地域と積極的に連携しつつ、共同研究に取り組みその成果を社会に情報発信することを目的としている当センター設立の趣旨が報告されました。

基調講演では、講師の小野晋也氏(OAK・TREE運動主宰 元文部科学副大臣)が「夢出せ!知恵出せ!元気出せ!」～志のある人づくり～と題して、「志」とは十を一にする心であるとし、それが「本物」を目指す原動力であり、自分の持っているものを一つにすることで自らの取り組みに一貫性を持たせることができ、本物を志向した生き方であり、そして自分の内なる力である「夢」・「知恵」・「元気」に気づき、それらを生かすことによって力強い志を持って生きていくことの大しさを熱く語られました。また、星城大学での教育においては、人間の根幹をなす「知」・「徳」・「体」を整え「生きる力」を養う責務を果たすべきとの指摘を受けました。

4名によるパネルディスカッション「本物に学ぶ人づくり～歴史に学ぶ、地域に学ぶ～」では、パネリストがそれぞれの立場から「人づくり教育」について貴重な発言と提案がなされました。まず、犬飼康博氏(中部日本放送(株)取締役/(株)シー・ウェーブ代表取締役社長)は、高度情報社会の弊害として若者のコミュニケーションの希薄化とその能力低下を憂い、対人関係の本質を見極める情報伝達技術の重要性を指摘され、次に坪田知広氏(観光庁観光地域振興課地域競争力強化支援室長(兼)スポーツ観光推進室長)は、教育には本物の情報収集と本物の体験学習が必要であり、これまでの学習や試験の見直しが求められている点を強調されました。そして早川康司氏(東海市教育委員会委員長/(社)東海青年会議所元理事長)は、先人から生き方や考え方を学び、それらを踏まえてチャレンジ精神をもち、自らの可能性にチャレンジする精神を持つことの重要性が述べられました。最後に吉村ゆきその氏(上方舞踊家/(社)日本舞踊協会参与)は、伝統芸能の伝承者の立場から、知識の詰め込みではなく、人間として行儀と作法とを兼ね備える重要性を説き、それらが現在の学生教育には欠けていると指摘されました。

本シンポジウムには、有識者や地域の方々、教育関係者など、本学教職員を中心として150名ほどの参加者があり、今後の教育のあり方に示唆を得ることができ、貴重なシンポジウムとなりました。



学長 水野 豊



学校法人 名古屋石田学園 創立70周年 記念式典のお知らせ

◆日 時：平成23年10月11日(火) ◆会 場：名古屋市公会堂 1階 大ホール

*記念式典 13時～13時30分 <記念公演 人形浄瑠璃「文楽」観賞>



6. 編集後記

編集後記

平成23年度星城大学元気創造研究センター報を発刊する運びとなりました。

元気創造研究センターの設置は『活力のある地域づくりや健康で文化的な市民生活の実現、行動力に飛んだ学生の育成を目指し、様々な研究的アプローチから「地域や市民・学生が元気になる」研究活動を開拓する』ことを目的としています。平成23年度はまさにその端緒についていた年度と言えます。

今後、設置目的達成に向けて事業内容の充実とその成果を地域の皆様にお届けしていく予定です。どうかご支援をいただきますようお願いいたします。

平成23年度星城大学元気創造研究センター委員

センター長 水野豊

副センター長 竹田徳則 天野圭二

委員 久保金弥 柴田良枝 森川孝典 石田隆城 久米宏子

平成23年3月

元気創造研究センターを代表して

竹田徳則

2011年度

元気創造研究センター 年報

2012年3月31日印刷

2012年3月31日発行

編集・発行 星城大学

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台2-172

TEL : 052-601-6000 (代)

FAX : 052-601-6010

